

# お金の勉強

# お金とはなにか



お金とは信用を数値化したものである

# 日本のお金の歴史

西暦	お金	説明
600年頃	75×180の麻の布  無文銀銭 (10グラムの丸い銀)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 布の単位:1ヒロ</li><li>• 銀銭の単位:1文</li><li>• 銀銭1文で3ヒロぐらいの価値</li><li>• お金はまだ高額だったため高額な交換での使用</li></ul>
700年頃	富本銭 (銅でできたお金)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 畿内での国づくりのために政府が新しいお金として発行 (布や銀のお金を作るためには時間がかかるため)</li><li>• 無文銀銭の使用を禁止し、富本銭を流通させようとしたが、お金は銀であるという人々の感覚を変えられず富本銭は流通せず消えていった</li></ul>
708年～	和同開珎(わどうかいちん) (5グラムの銀のお金)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 埼玉県の秩父で新しい銅が産出</li><li>• 元号を和同とする</li><li>• 10グラムの無文銀銭の代わりに和同開珎を使うように命令し、成功 (10グラムの銀を溶かして5グラムの和同開珎をつくっていった)</li></ul>
709年～	和同開珎 (銅のお金)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 銀の和同開珎の使用を禁止し、銅の和同開珎をつかうように命令するも失敗</li><li>• 銅の和同開珎を受け取って貯金する人には政府が表彰して位を授ける作戦を実施</li><li>• 銅の和同開珎が使用されはじめる</li></ul>
760年～	万年通宝@760年(まんねんつうほう) 神功開宝@765年(じんぐうかいほう) (銅のお金)	<ul style="list-style-type: none"><li>• 銅のお金の価値は銀0.2グラム程度に減価したため和同開珎の10倍の価値のお金として万年通宝(10文)を発行して世の中に受け入れられる</li><li>• お金の量が10倍になってもモノの流通は増えずに770年ごろには10文で買えるモノの量が1/10になる</li><li>• 万年通宝、神功開宝の価値は下がり10年後には和同開珎と同じ価値(1文)に変わっていく</li></ul>

# 日本のお金の歴史

西暦	お金	説明
796年～	隆平永宝@796(りゅうへいえいほう) 富寿神宝@818年(ふじゅしんぼう) 承和昌宝@835年(じょうわしょうほう) 長年大宝@848年(ちやうねんたいほう) 饒益神宝@859年(じやうやくしんぼう) 貞観永宝@870年(じやうがんえいほう) 寛平大宝@890年(かんぴやうたいほう)	<ul style="list-style-type: none"><li>10倍の値打ちがある銅銭が発行され、値打ちが下がっていくことを6回繰り返す</li></ul> <p>&lt;銅銭をめぐる損得&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>(政府)より多くのもので買い入れられ得をする</li><li>(政府)政府にお金ができると、仕事ができ働くひとびとに給料が支払えるようになる</li><li>(人々)仕事にありつけるようになる</li><li>(人々)借金をしているひとは、時間がたつとお金の価値が目減りするため得をする</li></ul>
907年～	延喜通宝@907年(えんぎつうほう) 軋元大宝@958年(けんげんたいほう)	<ul style="list-style-type: none"><li>銅銭の価値を上げるのではなく、「お米の値段はいくら」というように物価を決めて、物価を下げる法律をつくった</li><li>検非違使(けんびいし)と呼ばれる警察官をつかってものの値段が高くないように見張りをさせた</li><li>ものの物価が安定していった</li></ul>

# 日本のお金の歴史

西暦	お金	説明
984年～	—	<ul style="list-style-type: none"><li>強力な政治改革により、法律どおりにひとびとの生活を制限 モノが不足したり、人気が出たりすれば値段が高くなるのが普通だが、高く売ると警察に捕まるために、銅銭を使って買い物をするのが不安になっていく。 警察が銅銭をつかうように監視するが、警察に捕まるのが不安で銅銭を使わなくなったのに、警察がさらに厳しく監視するので銅銭を使うのがさらに嫌われていく。 200年近く銅銭は使われなくなっていき、布や米で買い物をするようになっていく</li></ul>
1100年～	宋銭	<ul style="list-style-type: none"><li>貿易をする商人によって宋銭が持ち込まれ始める</li><li>政治をする貴族が宋銭を使うことを反対</li><li>(貴族)自分の手持ちの布やお米で買い物がしにくくなるため、宋銭は使いたくない。*手持ちの布やお米の価値が下がるかもしれない</li><li>(貴族)布だと汚れるし、お米だと悪くなったりネズミに食べられたりするのでもらえるときには宋銭のほうがよい。</li><li>(庶民)布やお米はあまりもっていないので宋銭を使うことで便利になる</li></ul> <p>⇒宋銭が使われ始めていく</p> <ul style="list-style-type: none"><li>日本の政府がつくったお金だと、日本政府が勝手に値打ちを決めるが、宋銭は日本政府がつくっていないので不安が少なかった</li><li>日本政府が値打ちを勝手にきめても、税金を受け取る時の値打ちも連動するので政府も得をしない</li></ul>

# 日本のお金の歴史

西暦	お金	説明
1300年 ～	宋銭、元銭、明銭	<ul style="list-style-type: none"><li>• 宋から元へ、元から明へ</li><li>• 室町時代の日本人は明銭をあまり好まなかった。ピカピカした明銭をニセ金じゃないかと不安に思ったのかもしれない</li></ul>
1500年 ～	—	<ul style="list-style-type: none"><li>• ニセ金づくりが横行</li><li>• ニセ金問題に対応するために撰銭令(えりぜにれい)を制定したが、何度も撰銭令が繰り返し出されておりうまくいっていなかった。 ※撰銭: 劣悪な銭貨 ※撰銭令: 撰銭を禁止する法令</li></ul>
1569	—	<ul style="list-style-type: none"><li>• 織田信長が撰銭令を出したが、効果が強すぎた</li><li>• 相談しながらニセ金が混じった銅銭を使っていたが、信長の制裁を恐れて銅銭ではなく、米や銀をお金の代わりにして買い物をする人が増え始めた</li></ul>

# 江戸時代のお金(三貨制度)

金貨	銀貨	銅貨(銭貨)
計数貨幣	秤量貨幣 ※しょうりょうかへい	計数貨幣
両 1両=4分 1分=4朱	匁もんめ 1匁=10分 1000匁=1貫	文 1000文=1貫文

## 金1両あたりの銀・銭の公定相場の推移

年	慶長9 (1604)	慶長14 (1609)	元禄13 (1700)	天保13 (1842)	慶応4 (1868)	明治2 (1869)
銀貨	—	50匁	60匁	60匁	廃止	—
銭貨	永楽銭1000文 鑿銭4000文	4000文	4000文	6500文	—	10000文

# 日本のお金の歴史

西暦		説明
1868年 (慶長4)	太政官札 だじょうかんさつ	<ul style="list-style-type: none"><li>日本で初めて発行された全国に通用する紙幣(不換紙幣) ※不換紙幣: 貴金属と交換できない紙幣</li><li>明治新政府が巨額の財政資金を調達するために発行</li><li>各藩に対して1万石につき1万両のレートで貸付、各藩の経済が活性化</li></ul>
1868年 (明治1)	政府紙幣	<ul style="list-style-type: none"><li>政府が発行する紙幣(不換紙幣)</li></ul>
1871年 (明治4)	新貨条例	<ul style="list-style-type: none"><li>金貨(両)、銀貨(匁)、銭貨(文)と単位が別々だった通貨の単位を統一</li><li>1円に含まれる金の両は1.5グラム(金本位制)</li><li>1円=1ドル</li><li>1両=1円</li><li>1円=100銭、1銭=10厘</li><li>※兌換紙幣: 貴金属と交換できる紙幣</li></ul>
1873年 (明治6)	国立銀行紙幣	<ul style="list-style-type: none"><li>国立銀行が発行する紙幣(不換紙幣)</li><li>※国立銀行: 国立銀行条例によって設立された百何十という国立銀行</li></ul>
1882 (明治15)	日本銀行開業	<ul style="list-style-type: none"><li>お金を唯一、発行することができる中央銀行を設立</li></ul>
1885 (明治18)	大黒札発行	<ul style="list-style-type: none"><li>最初の日本銀行券(兌換紙幣) (銀本位制)</li><li>※日本が成果として蓄積していた正貨は銀だったため</li></ul>
1897 (明治30)	貨幣法制定	<ul style="list-style-type: none"><li>銀本位制から金本位制へ</li><li>金0.75グラム=1円</li></ul>
1899 (明治32)	政府紙幣、国立銀行紙幣 通用停止	



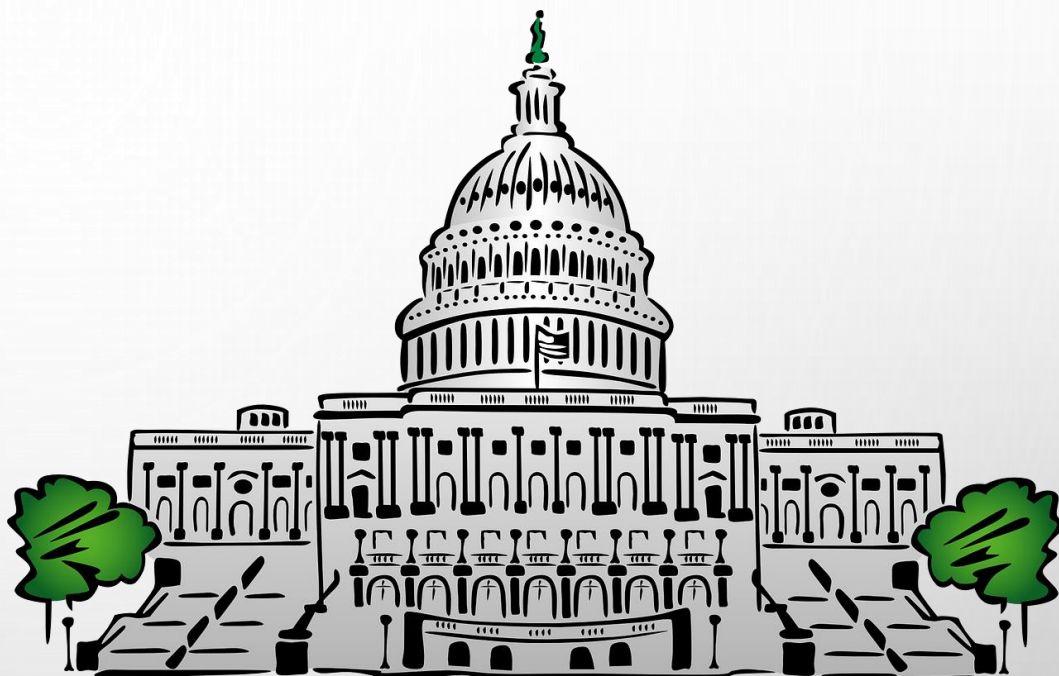
# 日本のお金の歴史

西暦		説明
1914年 (大正3)	第一次世界大戦開戦	
1917 (大正6)	管理通貨制度	<ul style="list-style-type: none"><li>• 大戦景気により日本銀行券の需要が増価</li><li>• 金の裏付けをもたない通貨を発行、管理(金本位制から離れる)</li><li>• 金兌換は停止しない</li></ul>
1918年 (大正9)	第一次世界大戦 終戦	<ul style="list-style-type: none"><li>• 株価暴落、大不況。20以上の銀行が休業</li><li>• 第一次世界大戦後の経済に安定に伴い、欧米が金本位に復帰していく</li></ul>
1923年 (大正12)	関東大震災	<ul style="list-style-type: none"><li>• 借金の支払い期限を延長する支払猶予令(モラトリアム)を政府が出す</li><li>• 震災手形の割引</li></ul>
1930年 (昭和8)	金本位制に復帰	
1931年 (昭和9)	金本位制から離脱	<ul style="list-style-type: none"><li>• 1929年の世界恐慌の影響で欧州各国が金本位から離脱</li><li>• 日本の円は弱くなり、円安となり輸出増加</li><li>• 兌換停止</li></ul>
1942年 (昭和17)	旧日本銀行法	<ul style="list-style-type: none"><li>• 管理通貨制へ名実ともに移行</li><li>• 中央銀行が金の裏付けを持たない貨幣を発行し、貨幣量をコントロール</li></ul>

# 日本のお金の歴史

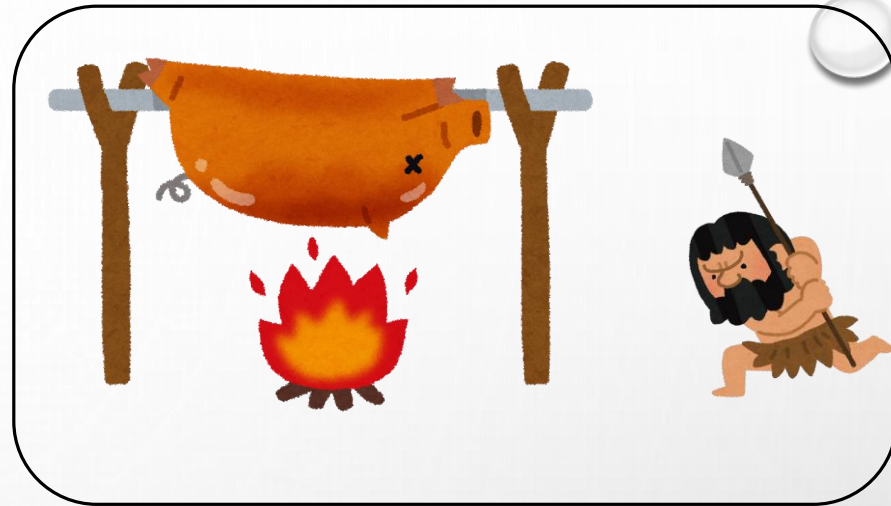
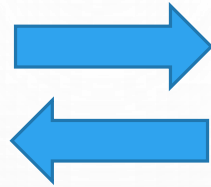
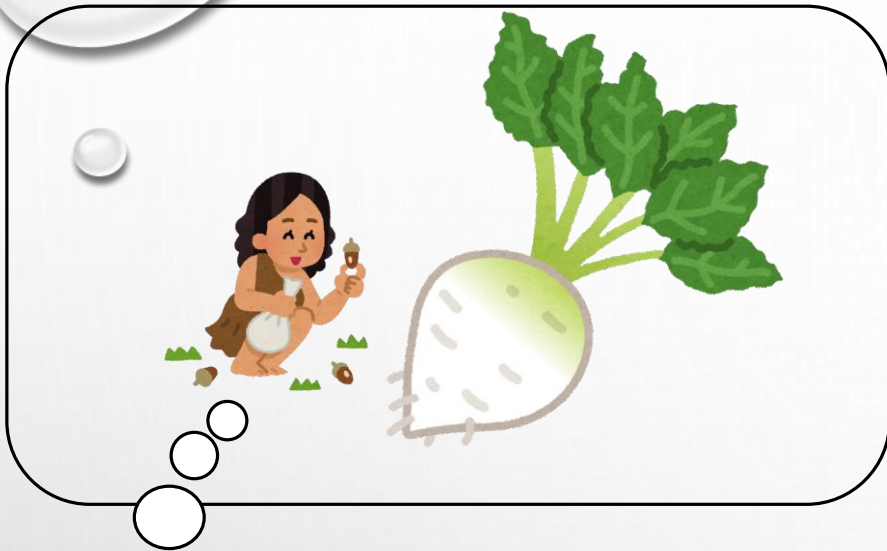
西暦		説明
1944年 (昭和19)	金・ドル本位制	<ul style="list-style-type: none"><li>ドルだけが金と交換できる。(ドルが基軸通貨)</li><li>他の国はドルとの交換比率を固定</li></ul>
1946年 (昭和21)	新円切替 財産税	<ul style="list-style-type: none"><li>新紙幣を発行、旧紙幣を強制的に銀行へ預金、預金引き出し額の制限</li><li>財産税は、10万円以上(今の価値に直すと約5000万円以上)の財産を保有する個人に課せられ、税率は最大90%</li></ul>
1949年 (昭和24)	単一為替レート	<ul style="list-style-type: none"><li>1ドル=360円</li></ul>
1971年 (昭和46)	アメリカが金本位制から離れる (ニクソン・ショック)	<ul style="list-style-type: none"><li>ドル紙幣と金の兌換を停止(金本位制の崩壊)</li></ul>
1973年 (昭和48)	変動相場制へ移行	
1985年 (昭和60)	プラザ合意 (ドル安政策)	<ul style="list-style-type: none"><li>米・英・西独・仏・日がニューヨークプラザホテルに集まり、円高ドル安を容認(米国のドル高不況の脱却)</li><li>(1ドル=250円台⇒1ドル120円台に急上昇)</li></ul>
1986年 (昭和61)	公定歩合の引き下げ バブル景気	<ul style="list-style-type: none"><li>中央銀行が一般の銀行に貸すときの利率(公定歩合)を下げる</li><li>銀行からお金を借りる企業が増えて、経済が活発化</li></ul>
1987年 (昭和62)	ブラックマンデー	<ul style="list-style-type: none"><li>ニューヨーク市場における株価の大暴落</li><li>ドル安・円高が加速</li></ul>
1991年 (平成3)	バブル崩壊	<ul style="list-style-type: none"><li>公定歩合の引き上げ、消費税の導入、不動産関連融資の総量規制、営業特金の禁止など</li></ul>

# お金とは信用を数値化したものである



お金は  
過去は金等に裏付けされた価値を持っていた  
現在は政府の信用にのみ成り立っている

# 物々交換は大変



<お肉がほしい>

お肉を持っている人と出会わなければいけない

<お肉と交換したい>

お肉(1頭)の価値と同じ価値の野菜を準備しないとイケない

お肉を交換してくれる人と、同じ時間/場所で約束しないとイケない

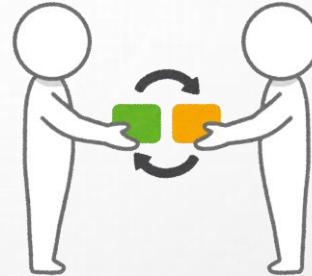
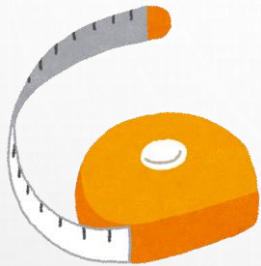
お肉を交換してくれる人が、お肉を持ってこないかもしれない/野菜だけ取られるかもしれない



お金を使って交換すると便利

# お金の役割

モノや労働のやり取りをする交換手段  
(価値の尺度、価値の交換)



財産や資産の機能  
(価値の保存)



# 必要なお金の量



¥50000

スマホを売ってお金をもらいたい



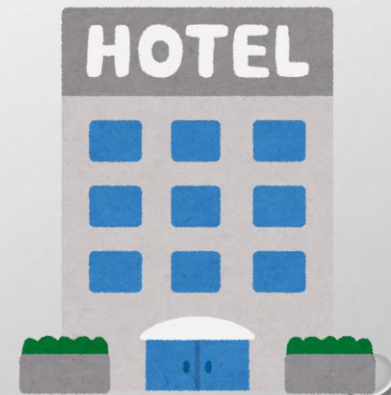
¥15000

料理を提供してお金をもらいたい



¥5000

お米を売ってお金をもらいたい



¥10000

泊まってもらってお金をもらいたい

すべて売買するためには¥80000のお金が必要

# お金の価値

モノやサービスを購入するにはお金が必要

モノやサービスを購入したいときにお金がない



お金が足りないとき、お金の価値はどうなってしまう？

# お金の価値が上がる/下がる



90000円分のお金が市場にある場合

需要が増える  
モノやサービスの値段が上がる  
お金の価値が下がる

経済が回る

インフレ



70000円分しかお金が市場にない場合

需要が減る  
モノやサービスの値段が下がる  
お金の価値が上がる

経済が回らない

デフレ

80000円分の  
モノとサービス

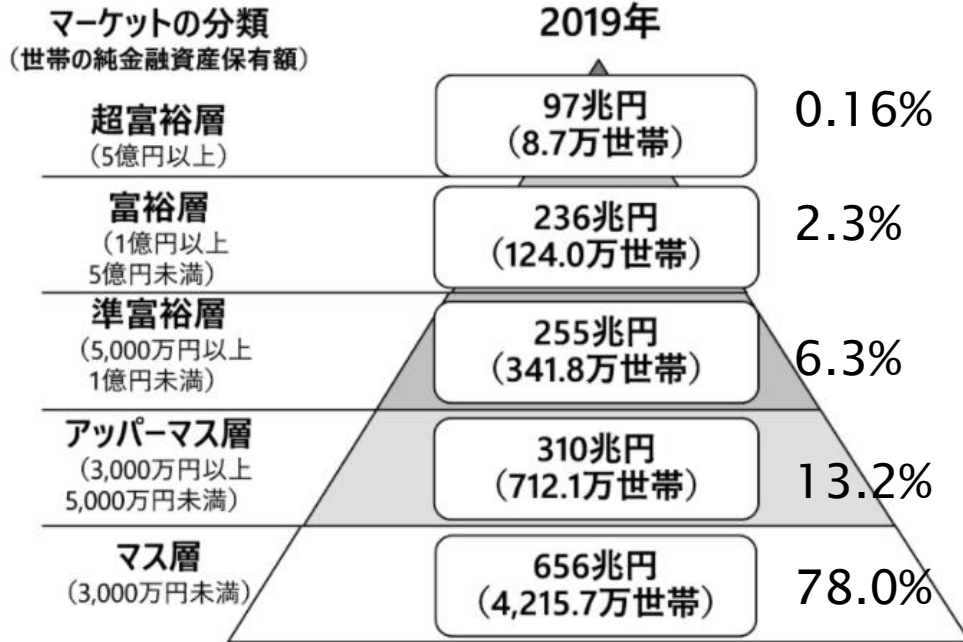
モノ/サービスとお金流通量のバランスでお金の価値は変わる  
あなたがお金持ちだったらお金を消費しますか？貯蓄しますか？



# 日本の純金融資産保有額

純金融資産：資産額から負債額を引いた額

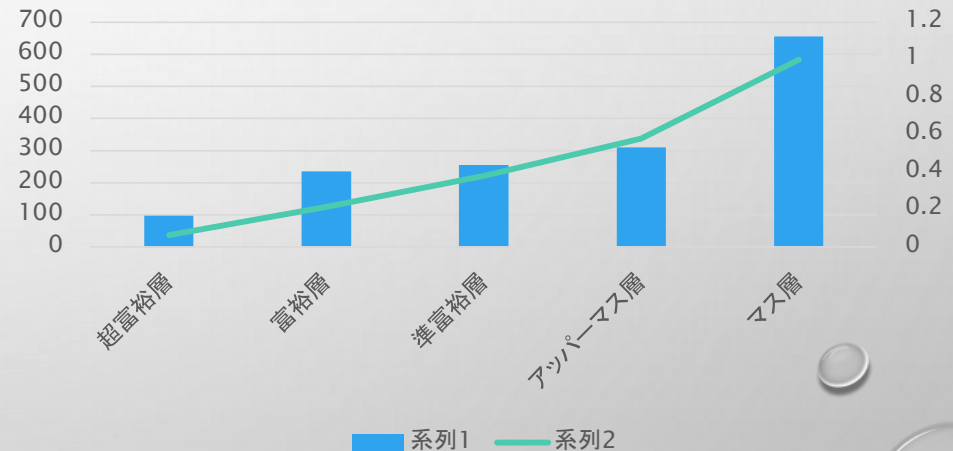
図1：純金融資産保有額の階層別にみた保有資産規模と世帯数



出所：国税庁「国税庁統計年報書」、総務省「全国消費実態調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計」、東証「TOPIX」および「NRI生活者1万人アンケート調査（金融編）」、「NRI富裕層アンケート調査」などからNRI推計。



資産保有額



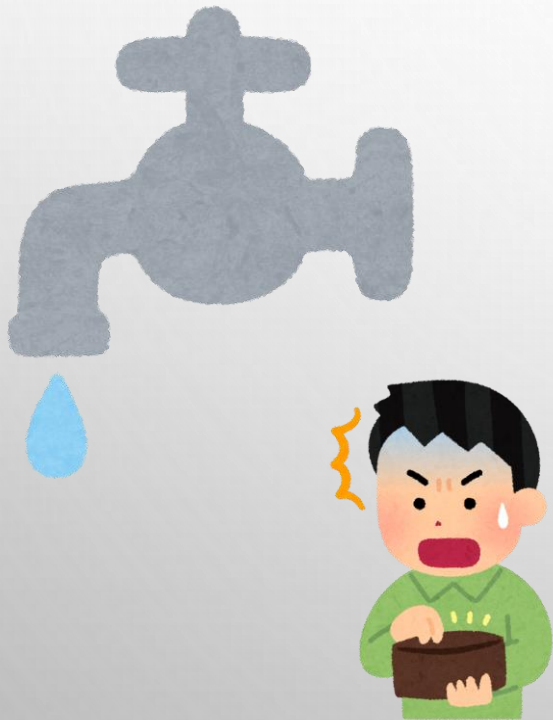
[https://www.nri.com/jp/news/newsrelease/lst/2020/cc/1221\\_1](https://www.nri.com/jp/news/newsrelease/lst/2020/cc/1221_1)

アッパーマス層以上(22%)が資産の57%を保有している

# お金の問題点

## 問題点①

モノやサービスに対応したお金の需要が起きるが、  
お金の供給が保証されているわけではない



## 問題点②

お金持ちがお金の供給を止めると  
お金の需要が上がり、お金の価値は上がる

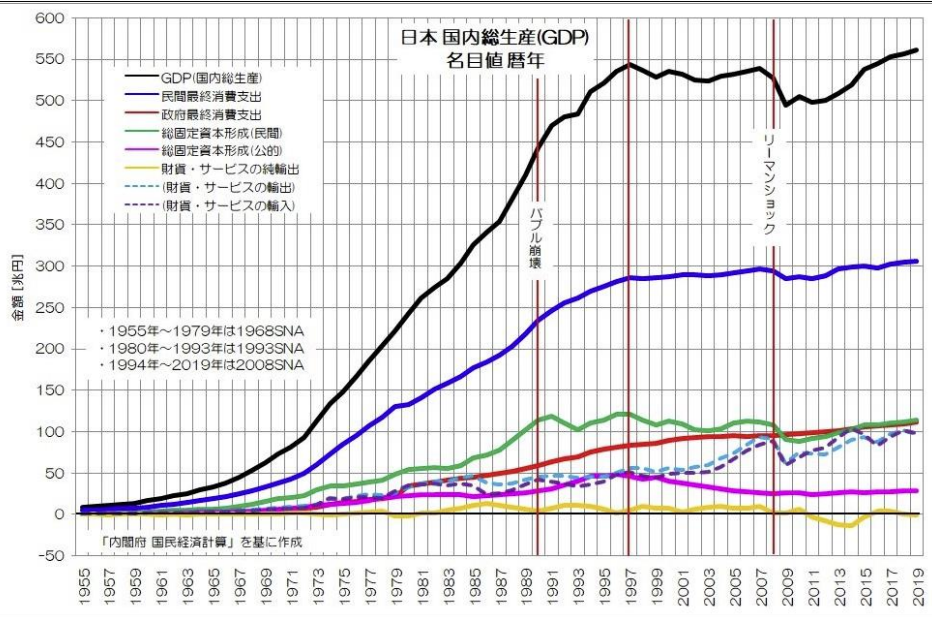
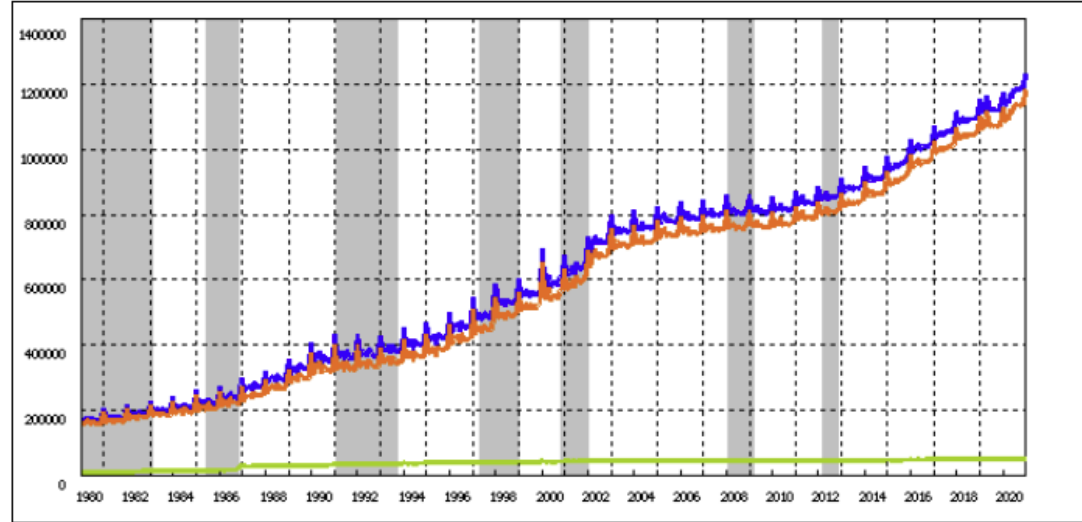


# お金の流通

# 日本のGDPの日銀が発行する紙幣

[https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cgi-bin/famecgi2?cgi=\\$graphwnd](https://www.stat-search.boj.or.jp/ssi/cgi-bin/famecgi2?cgi=$graphwnd)

[億円]



日本のGDPは約550兆円

日本の通貨流通高※は約120兆円  
※市場にあるお金の量

550兆円のGDPを生み出すためには  
お金が4.6回市場で回らなくてはいけない  
⇒1年間に4.6回も回るように現金が使われている？

# お金はどうやって生み出される

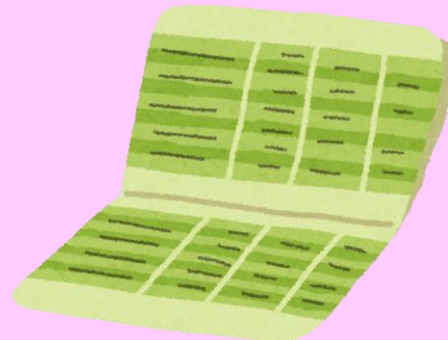
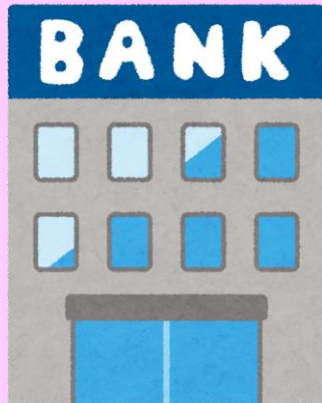
日本銀行券  
日本銀行が発行



貨幣  
政府が発行



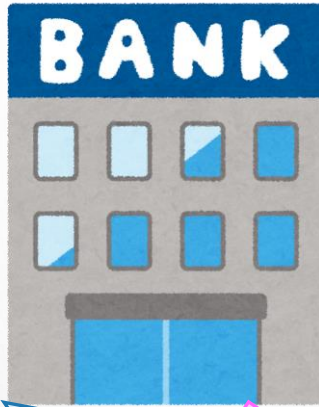
信用創造  
金融機関が貸し出しを行うことにより生み出されるお金



日本銀行・政府・銀行によりお金は生み出されている

# 信用創造

現金100万円を  
銀行に預金



銀行から  
50万円を借金

市場にある現金  
100万円

<通帳>  
100万円

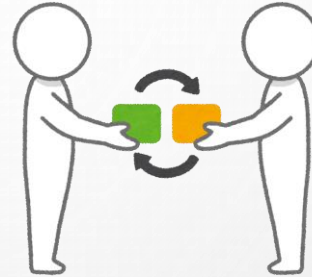
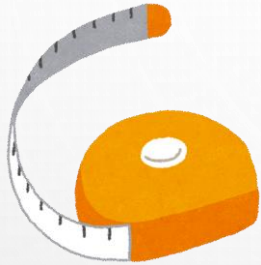
<通帳>  
50万円

市場で使われるお金  
150万円

市場に流通する現金以上に市場で使われるお金は増える  
さらに、銀行は金利を付けて運営されている

# お金の役割

モノや労働のやり取りをする交換手段  
(価値の尺度、価値の交換)



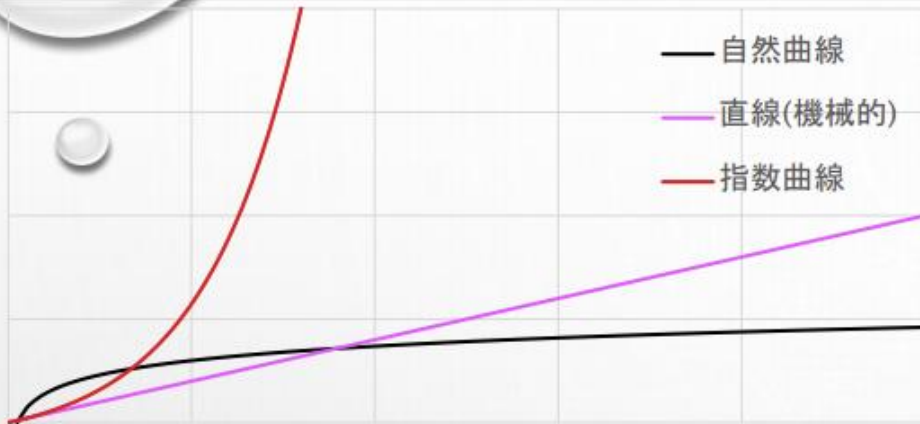
財産や資産の機能  
(価値の保存)



銀行 / 株式市場での資本の機能  
(投機の対象)



# 自己増殖するお金



## ＜自然曲線＞

自然界の成長曲線を単純化

## ＜機械的成長、直線的成長＞

人間が増えれば商品が増える

石炭が増えればエネルギーが増える

※限られた容量の地球情では維持不可能

## ＜指数曲線＞

通常、自然界においては病気や死に関わるところで見られる

利子が利子を生むというのは指数的な成長を示すのでいかに非現実かがわかる



## ＜お金が増えるとインフレになる？＞

・需要が増える？

⇒マス層にはお金がない

⇒嗜好品のモノ/サービスへの需要は増えない

・モノやサービスの値段が上がる？

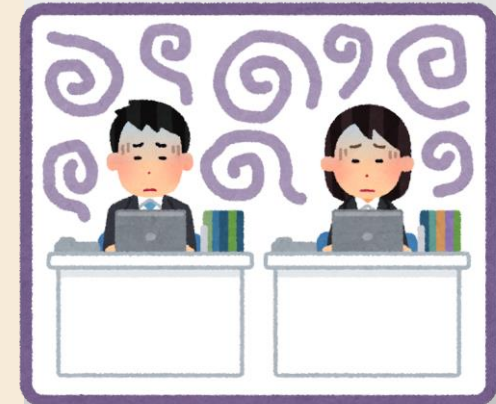
⇒物価には利子部分が含まれるために値段が上がる

⇒需要が少ない嗜好品のモノ/サービスの値段は下がる

・お金の価値が下がる？

⇒マス層にはお金がない

⇒お金への需要は高く、お金の価値は上がる



お金を持つ人、お金を持たない人で2極化が進行する



# お金の問題点

## 問題点①

モノやサービスに対応したお金の需要が起きるが、お金の供給が保証されているわけではない



## 問題点②

お金持ちがお金の供給を止めるとお金の需要が上がり、お金の価値は上がる



## 問題点③

お金は自己増殖するが、地球から供給できるモノ/サービスは有限



# 日本の債務の歴史

徳政令	鎌倉時代から室町時代にかけて、朝廷・幕府などが土倉などの債権者・金融業者に対して、債券放棄を命じた法令
棄捐令 きえんれい	江戸時代に幕府が財政難に陥った旗本・御家人を救済するために、債権者である札差に対して債権放棄・債務繰り延べをさせた武士救済法令
インフレーション (維新时期)	不換紙幣である政府紙幣や銀行紙幣が大量に発行され流通したことで、激しいインフレになりお金の価値が目減り
インフレーション (太平洋戦争)	巨額の国債は猛烈なインフレにより価値は紙切れ同然

何回も借金が返されなかった日本の歴史

# 腐るお金(ゲゼルマネー)

モノは時間が経てば価値が下がる



お金は価値が下がらない



過去:モノのやりとりをする交換手段だったお金  
現代:お金が力を持ちすぎてしまった  
将来:時間とともにお金が腐る社会が来るかも